

2012

広報

おばま 12

《表紙》

西津保育園で火災を想定した総合避難訓練が行われました。若狭消防署員協力の下、煙が出されると、先生と園児69人は、ハンカチで口と鼻を押さえ、姿勢を低くしながら、真剣な表情で避難をしていました。

この総合避難訓練は、市内各保育園・幼稚園で毎年実施されています。

(11月6日)

【特集】 求められる地域の防災力

求められる地域の防災力

いつ、どこで起こるか分からない災害。あなたの家庭や地域では、日ごろの備え、大丈夫ですか。いざというときに被害を最小限に抑えるためには、自分の身は自分で守る「自助」、地域で互いに支え合う「共助」の備えが欠かせません。今月号では、地域の防災力について考えます。

生活安全課 ☎内線 472・473

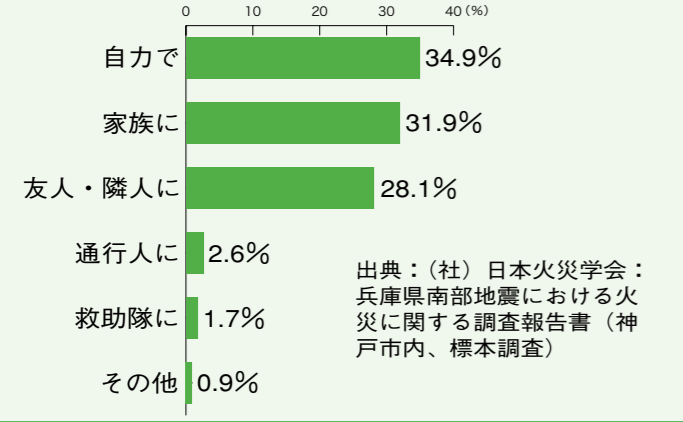
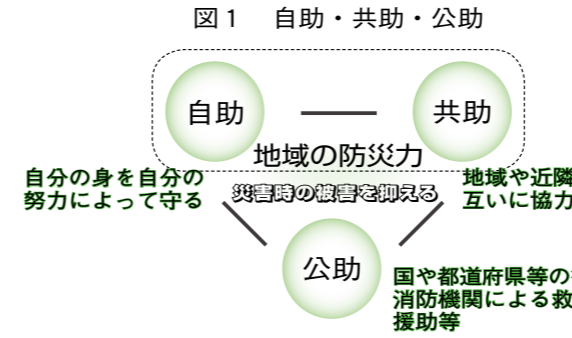


図2 生き埋めや閉じ込められた際の救助

90%超が自助・共助で救出
多くの犠牲者を出した平成7年の阪神・淡路大震災では、日ごろからの近隣や地域社会とのつながり・結びつきが大切だと認識されました。（社）日本火災学会の「兵庫県南部地震における火災に関する調査報告書（神戸市内、標本調査）」によると、自力または家族や近所の住民に救出された割合が90%を超えるという調査結果が報告されています（図2）。

自助が最も大切

自分の身は自分で守る「自助」、地域や身近にいる人同士が助け合って取り組む「共助」、行政や消防機関が取り組む「公助」。このうち、災害による被害を軽減するには、「自助」が最も大切だと言われています。いざというときに困らないよう、非常持出品の準備や家屋の耐震化、家具の転倒防止など、身の回りの安全対策を行いましょ。また、日ごろから家族みんなで話し合っておくことが大切です。



日ごろから防災対策を

- 災害に対しては日ごろから次のような対策をしておくことが大切です。
- ①身の回りの安全対策
地震に備え、家具は転倒防止器具などで固定し、棚やタンスの上に重いものを置かないようにしましよ。また、塀・石垣などの補強や家屋の耐震化など身の周りの安全対策を考えましよ。
 - ②避難場所・経路の確認
ハザードマップなどで避難場所や避難経路、危険箇所を確認しておきましよ。
 - ③早め早めの避難行動
テレビ、ラジオなどから最新の情報を入手し、自主的に早めの避難を心がけましよ。
 - ④家族との連絡方法
家族間で互いの連絡方法や、避難場所（集合場所）を決めておきましよ。
 - ⑤非常持出品の準備
懐中電灯、携帯ラジオ、3日分程度の食料・飲料水など避難時に最低限必要なものが揃ってましよ。

自主防災組織とは

自主防災組織とは、主体的に地域を守るといえる考えの下、地域住民が自主的な防災活動を行う組織です。昨年の東日本大震災では、避難や救出現場において、「地域の力」が大きく発揮されました。

自主防災組織の活動

自主防災組織の活動には主に次のようなものがあります。

- 【平時時の活動】
- 防災知識の普及啓発
- 防災訓練の実施
- 地域の安全点検
- 防災用資機材の整備
- 【災害時の活動】
- 情報の収集・伝達
- 出火防止・初期消火活動
- 住民の避難誘導
- 負傷者の救出・救護
- 給食・給水などの活動

73組織が登録

小浜市では昨今、市内各地で、各区などが母体となった自主防災組織の設立

活動を支援します

市では、本年度、地域防力の向上を図るために、「小浜市自主防災組織の育成に関する要綱」に基づき、73の組織が登録されています。

【補助対象者】「小浜市自主防災組織の育成に関する要綱」の規定に基づき登録された自主防災組織

【主な補助対象経費】

- ①防災訓練に係る消耗品費、燃料費、材料費、保険料など
- ②防災マップ、パンフレット、チラシなどの作成費・購入費
- ③看板、避難路案内標識などの作成・設置費
- ④防災資機材購入費・修繕費
- ⑤防災研修会の講師謝礼金

【補助金額】1組織当たり補助対象経費の2分の1以内（1万円上限）



防災メールの配信を行っています

市では、今年3月から、携帯電話やパソコンからアドレスを登録していただいた方に、防災情報（災害・避難情報など）をメールでお知らせする配信サービスを行っています。自分の身は自分で守るといふ「自助」の一環として、いざというときに備えましよ。

【登録方法】下記のウェブサイトに直接アクセスするか、QRコードを読み取ってアクセスし、「仮登録」の手続きを行ってください。仮登録されたメールアドレスあてに本登録の手順を案内します。サービスの開始は本登録完了後となります。

※QRコードを認識できるカメラ付き携帯電話で下記の図形を読み取ってください

http://bousaiobama.mail-dpt.jp/

※登録手順など詳しくは市公式ホームページをご覧ください

※振込詐欺などの防犯情報も配信します

※パケット通信料など通信に係る経費は、利用者（登録者）の負担となります

なお、本登録は、サイトポリシー（小浜市防災メール利用規約）への同意が必要です。

地域みんなで助け合おう

災害発生時には、人や家族の力だけで事態に対処するのは難しく、地域の中で助け合う「共助」で乗り切る必要があります。

そこで、各区などで「自主防災組織」を組織し、日ごろから災害に備えておくことが大切です。

自主防災組織

新保区自警団 団長 しまだ なおと 直人さん 嶋田 直人さん

地域全体で災害に備えることが重要

新保区では、個人個人での備えはしてたんですが、地区民が一带となった防災対策が不十分だったことから、平成17年6月に自警団（自主防災組織）を立ち上げました。

昨年5月の台風災害では、河川が氾濫し、区内4カ所で、土砂が道路や田んぼに流れ込みました。土のう積みや泥の排出に追われ、自主防災組織の重要性を改めて認識しました。

今年4月に実施した防災訓練では、台風が襲来したとの想定で避難訓練を行いました。日本赤十字社の方々を招いて、救急法や応急手当などについての講習も行い、区民の人たちには、防災に対する意識をいっそう高めていただけたものと思います。

防災で大切なのは、「迅速な伝達」と「迅速な行動」だと思ひます。そのためにも日ごろから区民全員が防災意識を高め、地域全体で連携して災害に備えておくことが重要だと考えます。



防災訓練での救急法講習の様子（今年4月）

産業振興功労



ふじわら きみお
藤原 喜巳男さん
(今宮・63歳)

昭和51年から家業である「ホテルせくみ屋」に従事され、小浜商業近代化地域計画に積極的に参加、協力され、小浜市の中心市街地の再開発とまちづくりに貢献されました。現在は、若狭おばま観光協会長、小浜商工会議所常議員、若狭おばま料理旅館組合長、(株)まちづくり小浜取締役等の重責を担われ、観光産業の発展と地域の活性化に大きく貢献されています。

自治振興功労



むらかみ まさとし
村上 正壽さん
(深谷・74歳)

平成12年から平成24年まで小浜市公平委員を3期12年務められました。平成17年から平成24年には、委員長の重責を果たされ、公正中立な立場で人事行政の適正化、公平性の確保に尽力されるなど本市の公平委員会の運営に大きく貢献されました。

産業振興功労



ときおか せつお
時岡 節夫さん
(高浜町和田・63歳)

平成16年に若狭湾観光株式会社および株式会社そともめぐりの代表取締役に就任され、観光交流人口の増加に尽力されています。現在は、小浜商工会議所常議員、若狭おばま観光協会副会長、(株)まちづくり小浜取締役の重責を担われ、観光産業の発展と地域の活性化に大きく貢献されています。

産業振興功労



もりした あたる
森下 充さん
(中の宮・63歳)

平成18年に小浜信用金庫の理事長に就任以来、地域金融の円滑化はもとより、地域福祉への寄与、さらに子育て支援やボランティア活動を積極的に行うなど地域密着型経営を実践されています。現在は、小浜商工会議所常議員、小浜市監査委員、土地開発公社監事の重責を担われ、地域の振興と活性化に大きく貢献されています。

社会福祉功労



さとう とよこ
佐藤 豊子さん
(犬熊・68歳)

平成4年から現在まで日本赤十字救急法指導員として、災害時の被災者救護に必要な知識と技術を普及させるとともに、救助員の育成に務められています。また、昭和43年に小浜市赤十字奉仕団に入団されてから現在まで、永年にわたり、社会福祉の向上に大きく貢献されています。

教育文化振興功労



たまい のりこ
玉井 令子さん
(広峰・77歳)

書道を愛好し、特にかな文字は高い評価を受けています。昭和56年に住居の一部を開放し「小浜カルチャーハウスめだかの学校」を開設。本年3月の閉講まで芸術を志す若者が集う拠点となっていました。平成8年から市文協理事に就任され、平成12年から6年間、副会長を務められました。現在、しろゆりの会副会長などを担われ、文化の振興と後進の育成に尽力されています。

受賞おめでとうございます！

平成24年度

市長表彰・奨励賞・文化奨励賞



平成24年度の小浜市長表彰、小浜市奨励賞、小浜市文化奨励賞の受賞者が決まり、11月3日、文化会館で表彰式が行われました。市長表彰は6個人、奨励賞は1団体、文化奨励賞は3個人の皆さんです。

*

市長表彰・奨励賞は、市や関係団体から推薦された候補者・候補団体を各種団体長で構成する小浜市表彰選考委員会で審議、選定され、市長が決定します。

文化奨励賞は、市や関係団体から推薦された候補者・候補団体を教育文化に関する各種団体長で構成する小浜市文化奨励賞選考委員会で審議され、市教育委員会で決定します。

■問い合わせ 総務課☎内線353
教育総務課☎内線422

文化奨励賞



かのう のぶこ
加納 暢子さん

(山手一丁目・76歳)

昭和52年に小浜市いずみ短歌会に入会し、研さんを積み、NHK短歌や山川登美子短歌大会で入賞されています。現在は、福井県短歌人連盟短歌会や福井県結社「百日紅」で歌評を行っておられます。小浜市歌人協会会長や小浜市いずみ短歌会代表を務められ、協会の運営や後輩の指導に精力的に取り組まれています。

奨励賞



あばん亭^{てい}

(本保)

平成20年4月に宮川地区の農家の主婦たちで宅配弁当屋を開業され、さらに、平成23年7月には、古民家を改築し、農家レストランを開業されました。地産地消や伝承料理の推進、高齢者や女性の雇用創出により、地域の活性化に大きく貢献されています。

文化奨励賞



こんどう みちこ
近藤 路子さん

(和久里・34歳)

第九実行委員会、はばたけ未来へ実行委員会の委員として団員の指導にあたられるとともに、第九演奏会では市民初のソリスト（独唱者）として出演されるなど、本市の音楽文化活動に貢献されています。平成23年には第63回福井県音楽コンクール声楽部門で最高賞の知事賞を受賞、平成24年には第53回東京国際芸術協会新人オーディションで準合格されるなど、今後の活躍が期待されます。

文化奨励賞



ぬくい たいいちろう
貫井 泰一郎さん

(検見坂・68歳)

美術および書道の教員として専門的な技術や知識を生かし、長年、高校生の指導に尽くされました。みずからの創作活動にも精力的に取り組まれ、個展は、京都・福井・小浜で9回開催されています。現在は、福井県総合美術展審査員、若狭美術協会会長として活動され、また、小浜市美術展実行委員長および小浜市文化協会理事として、市民が美術に触れる環境作りに貢献されています。

●市長表彰（自治振興・産業振興・教育文化振興・社会福祉功労）

政治、経済、教育文化などで市政振興に寄与され、市民の模範となって活躍された個人や団体を表彰します

●奨励賞

さん新たな発想や特色ある活動により、まちづくりや産業振興への貢献度が特に顕著であると認められる個人や団体を表彰します

●文化奨励賞

科学、教育、文学、芸術、歴史などで著しい業績をあげ、文化振興に寄与された個人や団体を表彰します